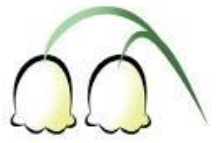


# 結核菌検査に適した痰の採り方

## 結核の早期診断のために



結核は現在でも、毎年全国で約1万5,000人が発病し、そのうち約35%は喀痰塗抹検査が陽性となっています。札幌市でも毎年約150人が新たに発病しています。

結核患者の多くは高齢者です。高齢者の場合、典型的な症状や画像を示さないことが珍しくなかったり、陳旧性陰影とみなされがちであり、診断が大幅に遅れて重症化する例も少なくありません。

診断の遅れは、重症化を招くだけでなく、周囲への感染拡大も引き起こす恐れがあります。

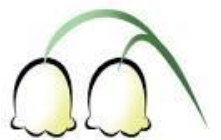
結核患者はどの医療機関にも受診する可能性があり、結核病床を有しない一般医療機関でも、外来や病棟で診断されることがあります。このため、結核患者の早期発見のための菌検査は、院内感染対策に重要です。

厚生労働省の結核院内（施設内）感染対策の手引き（平成26年3月）にも次のように示されています。

- ◆咳や痰が2週間以上続くような場合には、患者のサージカルマスク着用を確認した上で、胸部X線検査及び結核菌検査（3日間連続検痰が望ましい）を確実に実施することが重要。
- ◆咳・痰の明らかでない結核発病患者があることにも注意し、胸部X線検査で肺炎所見を認めた場合についても3日間連続の喀痰検査を行うことが必要である。

※上記の結核菌検査とは、喀痰抗酸菌塗抹検査、培養検査、結核菌群核酸増幅同定検査（PCR）をいいます。

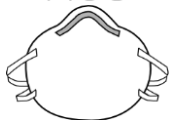
## 採痰の前にまず大切なこと



\* なぜ喀痰検査が必要なのかを説明してください。

十分な説明もなされず、患者まかせで採痰させた場合、唾液などが提出され、正確な患者病態を反映することができません。

N95



\* 外来で結核菌検査のための採痰をする時は、採痰室（専用の個室を準備、できなければブース）を用いてください。医療スタッフが採痰を介助する場合は、N95マスクを着用しましょう。

## それでは実際に痰を採ってみましょう

### 医療機関で採痰する場合



感染予防のため、医療スタッフはN95マスクを使用しましょう。

- ① 水を飲む  
水分補給することで痰がやわらかくなり、出やすくなります。
- ② 軽く体操をする（肩の上げ下ろし、首を左右に曲げる、胸を張る）  
肺の周りの筋肉をほぐすことで、たっぷり空気が入るようになります。
- ③ 深呼吸する  
最低でも5回以上繰り返し、痰が出やすくなるまで続けます。



お腹にあてた手をはね返すように鼻から息を吸います。



手でお腹を押さえるように口をすぼめて、吸うときの倍の時間をかけてゆっくりと息を吐きます。

- ④ 大きく深呼吸をした後、強く咳をして痰を出します



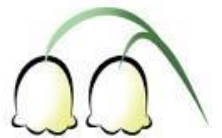
それでも出ない場合は・・・

3%高張食塩水をネブライザーで約10分吸入させ、咳と痰の喀出を誘発する方法があります。直後は出ない場合でも10～30分後までに喀出されることがあります。

更に、どうしても出ない場合は・・・

吸引痰や胃液、気管支内視鏡検査を行う方法もあります。

### 自宅で採痰する場合



- ① 起床直後に採取する
- ② 風通しの良いところで行う
- ③ 「採痰の実際」の①～④と同じ
- ④ 「良い痰」が採れたかどうか確認する。  
良い痰とは…膿性部分がある  
悪い痰とは…唾液のみである
- ⑤ 容器のふたをしっかりと閉め、できるだけ速やかに提出する。  
すぐに提出できない場合は冷蔵庫に保存する。（雑菌の繁殖を抑えるため）



結核対策には医療機関の協力が必要不可欠です。

ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

問合せ先：札幌市保健所 感染症総合対策課 結核対策係 電話) 622-5199

札幌市のホームページにも掲載してあります。

<http://www.city.sapporo.jp/hokenjo/flkansen/ftb00kekaku.html>